

- 歴史文書館第28回企画展  
『船と材木と掛塚港』・・・P1～2
- 歴史講演会 天下泰平を願う家康と磐田・・・P3
- 旧見付学校で『昔の授業体験』を開催しました P4
- コラム『未来に残すふるさとの文化』神谷英雄 P4

### 磐田市歴史文書館第28回企画展

「掛塚港廻船之碑」建立100年

# 船と材木と掛塚港



## 令和6年11/1(金) → 12/20(金)

11月10日(日)・17日(日)、12月8日(日)は特別開館

【展示解説】(申込み不要。直接会場へお越しください)

・11月10日(日)、11月17日(日) 10:00～14:00～

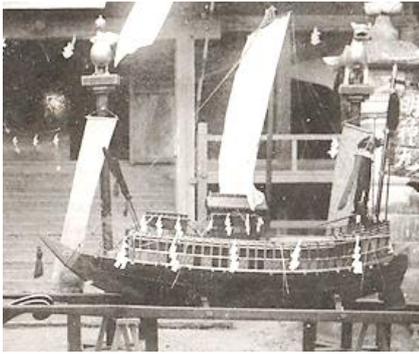
- ◆休館日 土曜日・日曜日・祝日
- ◆時間 9時から17時(入館は16時30分まで/入場無料)
- ◆会場 磐田市歴史文書館1階・2階展示室  
(磐田市岡729-1/磐田市竜洋支所内)
- ◆問合せ先 磐田市歴史文書館 電話:0538-66-9112



江戸時代から明治時代にかけて、天竜川河口に位置する掛塚(磐田市竜洋地区)は、材木を東京(江戸)などへ輸送する港町としてたいへん栄えました。廻船問屋が、その歴史をとどめるために貴船神社に建てた「掛塚港廻船之碑」も建立100年となりました。

この度、歴史文書館では、明治時代に廻船問屋を営んだ青嶋忠蔵家文書を中心にして近代の材木流通過程を紹介する企画展「船と材木と掛塚港」を開催することといたしました。

第1展示室(1階)では、材木の運搬に使われた船舶の写真・模型や絵馬、船の移り変わり、第2展示室(2階)では、木材が天竜川を下り、製材を経て船に積み込まれ、東京木場へ送られ、どのような人がかかわってきたかを文書史料や図などをもとに紹介します。



貴船神社の「御座船」(昭和初期の絵葉書より)

## みどころ① 船の移り変わりと掛塚

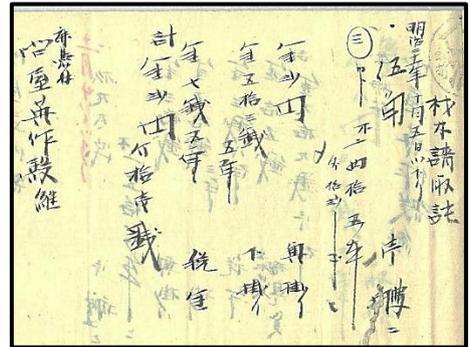
掛塚の祭りには、御座船が渡御の行列に加わります。神輿の中には船が据えられ、拝殿にも帆船や船の絵馬が奉納されています。かつては歳末に船主から供米などが奉納され、廻船の航海安全を祈る港祭も行われていました。

廻船の無事を祈る、港町の住民の願いが込められた祭りをとおして、掛塚の船の移り変わりを解説します。

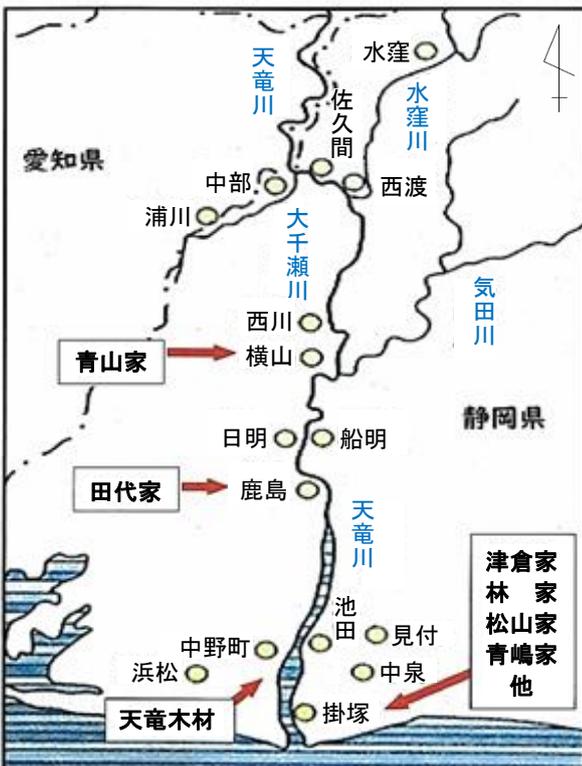
## みどころ② 天竜川から木場へ流通

掛塚は、上流から送られてくる木材を主に東京に輸送することで繁栄してきました。

木材が切り出されてから、どのようなルートで東京に運ばれていたのかを材木業者が書いた帳面をもとに解説します。



文書No.516より「材木請取証」(部分)  
青嶋忠蔵家文書・当館蔵



## みどころ③

### 繋がる天竜川流域の人々

天竜川を下る木材は、天竜川のほとんどの支流で一本ずつ流され、天竜川との合流点で筏いかだに組まれました。

天竜木材は、木材を伐採する人、川に流す人、筏を組む人等、多くの人々が木材を運び出すために働きました。横山の青山家や鹿島の田代家、掛塚の津倉家、林家など、天竜川流域の人々がどのようにかかわってきたかを地図を交えながら解説していきます。

「天竜川流域図」(部分)  
※『天竜川水運と樽木』(村瀬典章) 図1をトレース、一部地名等加除

## 歴史学習会「天竜川川下げ材の流通と掛塚」開催のお知らせ

- 1 日時：令和6年12月8日(日) 13時30分から15時
- 2 講師：名倉慎一郎(磐田市歴史文書館職員)
- 3 内容：天竜川を川下げされた木材が、どのような過程をたどって消費地まで届けられたのか、磐田市歴史文書館所蔵の青嶋忠蔵家文書をもとに、関連するエピソードを交えて解説します。
- 4 定員：50人(先着順) 参加費：無料
- 5 会場：竜洋支所2階会議室
- 6 申込：11月1日(金)から 電子申請で



電子申請

歴史講演会

# 天下泰平を願う家康と磐田 ～世紀の決戦に向けたその戦略～



**歴史講演会**

**天下泰平を願う 家康と磐田**

徳川家康、江戸幕府開創の礎を築き、日本の歴史に名を刻んだ偉人です。天下泰平を願った家康は、やがて来た世紀の決戦に向け磐田でも戦略を立てたと伝われます。その時代背景をはじめ、磐田でもいう「食田(食糧)の地産」の重要性、さらには、クロストークを交えながら家康ゆかりの歴史遺産を学び、郷土への誇りにつなげることを目的に講演会を開催します。

令和6年  
**12/15日13時00分～**  
磐田市竜洋なぎの木会館 [磐田市豊岡 6605-3]  
定員 800人 (定員を上回る場合は抽選) 参加費/無料  
申込方法/①Web(ウェブフォーム)申込 ②往復はがき  
のいずれかでお申し込みください(両方で申し込みはご遠慮ください)

講師紹介

小和田 哲男氏 静岡大学名誉教授	三浦 正幸氏 広島大学名誉教授	加藤 理文氏 磐田市文化財保護審議会副会長 日本城郭協会理事
---------------------	--------------------	--------------------------------------

①Web(ウェブフォーム)申込  
●QRコードからお申し込みください  
●応募締切/令和6年11月20日(水)  
●応募資格/令和6年11月20日(水)までにメールにて応募をお知らせします  
Web申し込みはこちら

②往復はがき  
●往復はがきに氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号を記入して下記へお送りください(宛先は必ずお間違いなく)  
●送付先/令和6年11月20日(水)まで磐田市文化財課  
●応募締切/令和6年11月20日(水)  
●抽選通知/令和6年12月5日(木)までに通信用はがきにてご連絡をお知らせします

【主催】 磐田市教育委員会 【お問い合わせ】 磐田市文化財課 TEL 0538-32-9699 bunkazai@city.wata.lg.jp

天下泰平を願い、戦国の争乱を生き抜いた徳川家康。戦いの日々を終止符を打つべく、磐田市でも戦略を立てたと伝わります。

その時代背景をはじめ、家康が世紀の決戦の前も訪れた「中泉御殿」の実像を中心に、戦国史を代表する専門家による解説と、クロストークを交えながら家康ゆかりの歴史遺産を学び、郷土への誇りにつなげることを目的に講演会を開催します。

## 12月15日(日)

## 13時から16時30分

磐田市竜洋なぎの木会館 大ホール  
(磐田市豊岡 6605-3)

講師:



小和田哲男氏  
(静岡大学名誉教授)  
(撮影・今井一詞氏)



三浦正幸氏  
(広島大学名誉教授)



加藤理文氏  
(磐田市文化財保護審議会副会長  
・日本城郭協会理事)

定員: 800人 (定員を上回る場合は抽選)

参加費: 無料

申込: 11月20日(水)までに電子申請、または往復はがきに氏名、住所、電話番号を記入し、文化財課(〒438-0086 見付3678-1)へ電子申請  
当選・落選の結果は、12月5日(木)までに、メールまたは返信用はがきで連絡します。



問合せ先 文化財課 TEL0538-32-9699 FAX0538-32-9764

# 旧見付学校で『昔の授業体験』を開催しました

9月29日（日）に、現存する最古の木造擬洋風建築校舎である旧見付学校にて、『昔の授業体験』を開催しました。

当日は、児童13名がかすりの着物を身に着け、明治時代の国語・音楽・体育の授業や昔の遊びを体験しました。



音楽の授業風景

参加者からは、「キ」や「ゐ」など見たことが無い文字があつて面白かつたという声や、学校で習っている音階の表現と違って不思議な感じがした、着物のままでの体操したり遊んだりするのも楽しかつたといった感想がありました。

体験を通じて、地域の歴史や文化に興味を持つきっかけになれば幸いです。



国語の授業風景

## 職員リレー コラム

### 未来に残すふるさとの文化

神谷 英雄

秋になると勇ましい掛け声、笛や太鼓の音色がまちのあちこちから聞こえて、心躍る人たちも多いのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスがまん延した2020年以降、開催を見送ったり、縮小したりしていた祭りもコロナが5類になって、以前のように開催するところも増えてきました。とはいえ、全国的にみれば少子高齢化による担い手不足にコロナが契機となり縮小・中断しているところも多くあるようです。

岩手県奥州市にある妙見山黒石寺にて、千年以上の歴史を有する黒石寺蘇民祭が、祭りを担う関係者の高齢化と担い手不足により、祭りを維持していくことが困難な状況となったため、今年の2月にその長い歴史に幕を下ろすこととなりました。

国の文化財の祭りでもそのような状況になるというのは驚きでしたが、担い手がいなくなったという声はこの地域でもチラホラ聞こえてきています。

祭りなどを維持していくのが難しくなっている今、ふるさとの文化を未来に残すために、何をすべきか考えていく必要があります。

**編集後記** 先月号の編集後記を食べ物の名前前で埋めるほど、長年『食欲の秋』派の私ですが、今年『運動の秋』も始めました。このまま運動習慣が身につけばいいと思います。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより

検索

